

2013年6月7日

上智大学キリスト教文化研究所活動報告

現在の主な活動は、連続講演会と聖書講座、そして共同研究「儒教文化圏におけるキリスト教の受容と霊性」です。第41回目を迎えた今年（2013年）の連続講演会は、“日本における‘喪’の心とその形”をテーマとして、6月22日～23日に開催されました。5名の講師によって、茶の湯、儒教、死生学、日本古代史、そして神道の各分野から発表がなされました。また、11月16日～17日には、“文学における神の物語”をテーマとして、第〇回目の聖書講座を控えています。

（2012年度 報告）

1. 講演会活動

①第40回連続講演会

テーマ：「日本カトリシズムの再生」

日時：2012年6月16日、17日

場所：上智大学中央図書館921会議室

・個別テーマ・講師

6月16日（土）

「近代日本におけるカトリック文学—吉満義彦から須賀敦子まで」
若松 英輔（株式会社シナジーカンパニージャパン代表取締役・批評家）

「近代日本における哲学・キリスト教と岩下壯一」
黒住 真（東京大学大学院教授）

「神谷美恵子—魂の認識への献身と人間の宗教性」
釘宮 明美（白百合女子大学准教授）

6月17日（日）

「西田哲学とキリスト教」
田中 裕（上智大学教授）

「九鬼周三とキリスト教」
川中 仁（上智大学准教授）

②2012年度聖書講座

テーマ：「日本における聖書翻訳の歩み」

日 時：2012年11月17日、18日

場 所：上智大学中央図書館921会議室

・個別テーマ・講師

11月17日（土）

「福音書を訳する困難さ」

佐藤 研（立教大学教授）

「聖書合本の刊行を終えて」

小高 毅（フランシスコ会聖書研究所所長）

「日本聖書協会の新翻訳事業について—スコポス翻訳理論を考える」

渡部 信（日本聖書協会総主事）

11月18日（日）

「ケセン語訳聖書からセケン語訳聖書へ」

山浦 玄嗣（医師・医学博士）

「キリシタン時代の聖書理論」

佐久間 勤（上智大学教授）

2. 出版活動

聖書論文集：『終末を生きる』

2012年11月5日出版社リトン発行

紀 要：「上智大学キリスト教文化研究所紀要 31号」

2013年3月22日発行